



2026 FIM世界耐久選手権 第3戦
“コカ・コーラ”鈴鹿8時間耐久ロードレース 第47回大会

Coca-Cola 2026 Suzuka 8 hours



- 6月30日(火)：テストセッション1
- 7月 1日(水)：テストセッション2
- 7月 2日(木)：公式車検
- 7月 3日(金)：フリー走行・公式予選
- 7月 4日(土)：フリー走行・TOP10 トライアル
- 7月 5日(日)：8時間耐久 決勝
- 三重県 鈴鹿サーキット
- 1周= 5.821km
- クラス：EWC
- マシン / BMW M1000RR
- タイヤ / BRIDGESTONE

天気：雨時々曇り 路面：ウエット

3 関口 太郎 / 中村竜也 / 田中啓介

予選 22番手 best：2分06秒973
average：2分07秒150

決勝 43位 (162周) EWCクラス：27位



三明電気工事



悔しさが残った2026年鈴鹿8耐

2026年の鈴鹿8耐はSANMEI Team TARO PLUSONE with SDGにとって非常に厳しいレースとなった。最新型のBMW M1000RRにスイッチし、チームとして5回目の鈴鹿8耐にチャレンジしたが、他車の撒いたオイルが流れを大きく狂わせる結果となった。



ライダーラインナップは、チーム代表兼エースライダーの関口を中心に、2年目の中村竜也、そして初参戦となる18歳の田中啓介を起用。今年は事前テストが5月の一回のみだったが、開催時期が例年より1カ月早いと、梅雨が明けておらず、雨のレースになることも予想されていた。開催が早まったことで、期間が限られプレイングマネージャーの関口は、例年以上に準備に追われていた。



まずは、鈴鹿8耐に参戦させていただいたことを関口選手を始めチームの皆さま、藤本電機工業・藤本社長に感謝申し上げます。水曜日に転倒してしまいチームにご迷惑をかけしてしまいました。木曜日は全身が痛く動けなかったのですが、最終的にちゃんと走れる状態に身体のケアもしていただきました。

雨は精神的に厳しかったのですが、乗る度に理解度は深まり、ライダーとして引き出しが増やせたと思います。この経験を糧に、シーズン後半戦で結果を残せるように頑張ります。

田中啓介

レースウィークは、火曜日と水曜日にテストセッションが行われた。初日はドライとなり、まずは関口が車体セットを確認し、中村と田中も走り込み、タイムも上がってきていた。2日目も午後から雨予報となっていたため、午前中にドライのセットを進めたいところだった。前日の走行を受けて、田中にアドバイスをすると、すぐに2分08秒3までタイムを縮める。しかし、1コーナーで転倒を喫してしまう。大きなケガはなかったが、マシンのダメージが大きく、メカニックは修復作業に追われた。2日目の午後は予報通り雨となり、修復した車両のチェックと雨のセットアップを進め、予選、決勝に向けた方向性を確認することができていた。



木曜日の車検日をはさみ、金曜日は青空が広がり気温も上がってきていた。朝のフリープラクティスでマシンを確認し、公式予選を迎える。ライダーブルーの関口は、1本目では、うまく場所取りができなかったものの、2本目で、うまく速いライダーをマークし2分06秒973をマーク。ライダーイエローの中村も1本目でタイムを出せなかったものの、2本目にユーズドタイヤで2分07秒327を記録。2人の平均タイムは2分07秒150となり、22番手グリッドを確保した。ライダーレッドの田中も2分08秒840まで縮め、決勝に向けて十分手応えを感じていた。

土曜日までには順調でしたが、決勝は雨の影響で難しいレースになりました。関口選手が転倒した車両を修復してコースイン。路面状況が悪かったので慎重に走っていましたが、雨でどこにオイルがあるのかわからない状況になっていました。ラインを少し変えようとした瞬間にリアタイヤがオイルに乗ってしまい、そのまま転倒してしまいました。関口選手と全く同じ場所だったので、自分の判断も含めて反省していますし、その後は走ることができず、チームに迷惑を掛けてしまったことを本当に申し訳なく思っています。ただ、それまではいい流れで走ることができていましたし、予選でも中古タイヤで2分07秒3までタイムを上げることができました。昨年よりも確実に成長していることを実感できていただけに、その成果を決勝で発揮できなかったことは悔しいです。来年もチャンスをいただけるのであれば、この悔しさを晴らせるようリベンジしたいですね。

中村 竜也

土曜日のフリープラクティスは、開始直前に雨が降り始めたため10分ディレイして始まったが、それほど雨は降らず、セッション序盤はほぼドライコンディション。その後、雨が強くなって来たため、決勝用タイヤの皮むきを行い走行を終えた。

日曜日は、予報通り雨に見舞われた。朝のウォームアップ走行でウェットの状態を確認。雨量が多くて少なくとも乗りやすい状態になっていたのだが…。



スタート進行が始まるころに雨は、ほとんど止んでいたが路面はウェット。スタートライダーは、関口が今年も務めた。

11時30分に予定通りレースは始まった。スタート直後はウェットということもあり、周りの状況を見ながら徐々にペースアップ。ポジションを上げていった。6周目にオイルを噴いたマシンがあり、1コーナーからデグナーカーブまでオイル旗が提示されていた。#99 MARC VDSのマシンがS字で転倒しているのを確認し“オイルで転倒したのかな？”と思っていたところ、オイル旗が消えたので“オイルは出ていなかったのか”と安心したところ、S字コーナーでオイルに乗ってしまい、まさかの転倒を喫してしまう。すぐにマシンを起こし再スタートを切ったためモニターにも表示されなかったが、マシンのダメージがあったためピットイン。その直後に130Rでもオイルを噴いたマシンがあったため、セーフティーカー(SC)が導入される。このときは、130Rはオイル処理されたが、S字コーナーは、なぜか処理されなかった。



マシンの修復が終わると、中村がコースイン。コースの状況を見ながらペースを上げていくが、雨のため、どこにオイルが出ているのかわかりにくい状況だった。そして気をつけていたのだが、全く同じ場所でもオイルに乗って転倒してしまう。何とかピットに戻るものの中村は身体を痛めてしまう。再びマシンを修復し、田中が出ていくと、関口と2人でゴールまでつないでいった。レース終盤は雨が強くなり転倒車が出たタイミングでSCが入る。SCラン中に田中がピットインし、関口にかわると、SCランのままチェッカーとなり、43位、EWCクラス27位で完走を果たした。不運に翻弄されたレースとなったが、最後まで諦めずに戦い抜いた。



2026年の鈴鹿8耐は、ひと言で言うとうまくいかなかったですね。レース序盤でオイルに乗ってしまい転倒し、流れを変えてしまいました。どんな状況でも転んでしまったのは自分自身の責任。中村選手、田中選手、チームスタッフ、応援してくださっている皆さま、何よりご支援いただいている三井電気工事様、SDG様を始めスポンサーの皆さまに申し訳ない気持ちでいっぱいです。チームオーナーとして、チームマネージャーとしても、もっとできることがあったのではないかと自問自答しつつ、うまくいかなかったからこそ見えて来たこともあったので、結果に結びつかなかった原因を洗い出し、2027年の鈴鹿8耐に向けて取り組んでいきたいと思っています。その前に、全日本シーズン後半戦をしっかりと戦います。引き続き応援よろしく願っています。

関口 太郎